

- 1 報告地区 : 留萌地区
- 2 事例報告学校名 : 天塩町立天塩小学校
- 3 報告者 : 校長 本間 博 樹
- 4 キーワード : 小中高連携

1 はじめに

天塩町の基幹産業は漁業と酪農であり、かつては十数校の小・中学校が町内に点在していたが、現在では、児童数の減少に伴って小学校は天塩小と複式校である啓徳小の2校、中学校は天塩中の1校、そして天塩高等学校と学校は4校だけである。

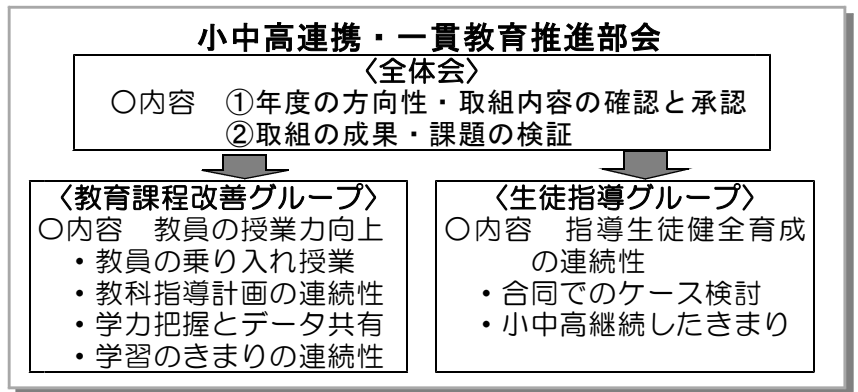
天塩町教育研究協議会においては、数年来の課題である「中1ギャップ」の解消や学力向上などを目的に、授業交流や体験入学の実施、児童生徒の情報交流などに取り組んできた。近年は、小学校2校と進学先である中学校との更なる連携の充実や、中学校と高等学校との連携を強化するため、文部科学省の指定を受けて中高連携の取組も進めてきた。しかしながら、町全体で児童生徒のよりよい学びや育ちを実現するためには、各学校間の連携を一本化する体制づくりが重要であると考え、研究協議会に新たな部会として「小中高連携・一貫教育推進部会」を設置し、小中高が繋がる教育体制づくりを目指している。

2 小中高連携・一貫教育推進部会

目指す連携の在り方について、何が課題かを明らかにし、解決を図るための方策を話し合う場として、天塩町教育研究協議会に「小中高連携・一貫教育推進部会」を設置した。

部会の構成メンバーは、研究協議会の会長、副会長と各校の教務主任、生徒指導担当者とし、全体会と教育課程改善・生徒指導の2グループ（右図）を設置。全体会での協議・検討内容を2つのグループで具体化するシステムとした。

また、学習指導の工夫・改善や授業交流については、従来からの教科別部会を生かし、活動を働きかけたり促したりして取組の活性化に努めている。



3 具体的な取組の様子

(1) 合同学習（小小連携）

中学校への進学を見据え、2つの小学校の児童が、小学校段階からよりよい人間関係を築くことができるよう、年間6回の合同学習（6年生は7回）を実施している。学習内容は、2校の各学年担任による話し合いで設定しているが、1校が少人数複式校であることから、体育の球技など集団で活動する内容の実施についても配慮している。6年間にわたる合同学習を積み重ねによって、子ども同士の関係が深まる様子もみられるようになってきており、中学校進学への不安も解消されるようになってきた。



〈3年合同体育ボール運動〉

(2) 「つながりのよさ」を生かす授業の取組 [小中・中高連携]

小学校入学から高等学校卒業まで、12年間の繋がりに視点を当てた教科指導の在り方については、町教育研究協議会に設置している「各教科・領域部会」において、指導計画や指導方法などを研究し、授業での実践化に取り組んでいる。文科省の指定を受けてからは、小・中・高3校

種の教職員が協力して授業を公開し、教科指導の改善・充実を目指して取組を進めてきた。

昨年度は、異校種の教師による乗り入れ指導やT T指導も数回実施し、該当教科部会以外の教職員も参観できるよう配慮するとともに、児童生徒による授業評価を実施し、これを授業後の協議に活用するなどして12年間にわたる指導の連続性や内容の系統性を意識した授業づくりについて、授業力向上を図ろうとしている。

また、校種の枠を越えて、各教師の教科専門性を生かす授業では、児童生徒の意欲的な学びの姿がみられ、通常とは違う指導場面において学級の様子や児童生徒個々の特性など、新たな一面を捉える上で効果がみられている。



〈小学校理科の乗り入れ授業〉

高学年(5・6年生)	○両手をつく→体を抱え込み→回転→両手を着く・押すという一連の動作が安定して行えるようになる。 前転 → 開脚前転 後転 → 開脚後転		○倒立で両手と頭(三角形)の位置を意識して足を振り上げ、体をまっすぐにする。 倒立	○個々の能力に合わせた高さで「開脚跳び」「かかえ込み跳び」ができ、着地まで安定させることができる。 開脚跳び かかえ込み跳び	○個々の能力に合わせた高さで「台上前転」ができ、着地まで安定させることができる。 台上前転 一発展：首はね跳び 頭はね跳び
12年生	回転系(投転) ○滑らかな回転の仕方を高める。 ○技の一連の動きを滑らかにする。 伸膝前転 伸膝後転 倒立前転	回転系(ほん転) ○全身を支える、突き放す着手の仕方を身に付ける。 ○回転力を高める。 ○技の一連の動きを滑らかにする。 側方倒立回転 前方倒立回転 首はねおき	巧技系(平均立ち) ○バランスよく姿勢を保つための力の入れ方が分かる。 ○バランスの崩れを修復する動き方が分かる。 片足平均立ち 倒立	○個々の能力に合わせた高さ(中学校用)での開脚跳びができ、着地まで安定させることができる。 6段を男子の6割が跳べる 6段を女子の6割が跳べる ○個々の能力に合わせた高さ(中学校用)でかかえ込み跳びができ、着地まで安定させることがで	○個々の能力に合わせた高さ(中学校用)での台上前転ができ、着地まで安定させることができる。 4段程度の高さでクラスの7~8割の生徒ができる。 ○首はね跳び、頭はね跳びに挑戦することができる。 首はね跳び 頭はね跳び

〈12年間をつなぐカリキュラム【体育 器械運動】から〉

(3) 学力学習状況調査の結果分析による児童生徒の実態把握(小中高一貫)

天塩町では学力調査研究所を設置し、毎年実施される学力・学習状況調査の結果分析や改善の方策を立案し、報告書にまとめて各学校に示してきた。しかし、研究所の所員は全員が管理職であり、報告書の内容については町内の教員全てに浸透するまでには至っていない状況があった。

そこで、「小中高連携・一貫教育推進部会」の設置を機に、国語、算数、理科については該当教科部会が、児童生徒質問紙については生徒指導グループが結果の分析と改善策立案を担当することとした。

このことによって、専門教科や分野の視点から質の高い分析や改善策の立案ができるようになったとともに、概要を町内研究発表大会で報告するようにしたことで、児童生徒の現状把握と授業の具体的改善に対する教師一人一人の意識が高まっている。

〈平成28年度 天塩町学力学習状況調査結果報告書 国語より抜粋〉

○今年度の国語科の傾向

「話す・聞く能力」については、全国平均より13.5ポイント下回っており、特に「質問の意図を捉える」問題では、正答率が30.0% (全国51.15) という結果であった。

○授業での改善例

- ・インタビューをする際、メモを基にしながらも、実際の話の展開に応じて質問するために、相手の話に同意した上で質問したり、相手の話を言い換えてから質問したり、話題を変えて質問したりするなど、質問の仕方を取り上げて指導する。

4 おわりに

社会の急激な変化への対応や歯止めのかからない少子化など、今日の学校教育には課題が山積しており、これら数々の課題の中には、各学校による単独の解決が困難なものもあるのではないだろうか。このような状況にあって、天塩町が取り組んでいる「校種間連携」は、山積する課題を解決するための一手法になり得ると考えられる。

本町での取組は、まだ緒についたばかりではあるが、町内教職員の知恵と力を結集することで効率的かつ効果的な教育活動を創り出し、子どもたち一人一人が「将来をよりよく生きる力の基盤」を身に付けられるよう、町ぐるみの教育力をさらに高めていきたい。